

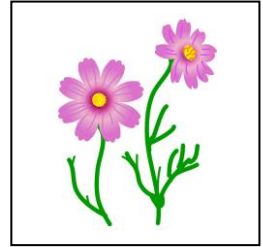


令和2年度

横浜市立生麦小学校

学校だより

横浜市鶴見区生麦4-15-1 学校長 沼田 留美子
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>



10月（神無月）

未来への応援

校長 沼田 留美子

正門工事が無事に終わりました。9月15日から使っています。「おおー、かっこいい。」「すごい！」など感嘆の声をあげながら登校してくる子もいれば、「今までの知っている門じゃなくなったなあ」とちょっぴりさみし気な地域の方もいらっしやいました。塀も周囲に合わせ網状のものに変わり、金次郎さんや、記念碑が外からもよく見えるようになりました。長い間、近隣の方には解体時の音などでご迷惑をおかけしました。温かく見守っていただいたことを心から感謝申し上げます。

そんな正門の前に、いつものように子どもたちを迎えにいくと、黒山の人だかりならず、「あり」が何かに黒山のようにたかっています。そして、ありの行列が正門わきの植え込みにつながっているのが見えました。子どもたちの何人かもそれに気づき、「きゃっ」と、ひとはねして逃げていく子もいれば、座り込んでしばらく見ている子もいました。ふと、「ありの行列」という教材文が、3年生の国語の教科書に載っているのを思い出しました。お話にはありの研究をした、アメリカのウイルソンという学者が出てきます。きっと、この子どもたちのように、好奇心と一緒に、じっとありの姿を見ていたのだと思うと、小さな未来の学者が生麦小にもいるなとちょっとうれしくなりました。

学者の他にも未来で活躍しそうな姿が見つかります。校庭では、リレーの選手がいかに速くゴールできるか、バトンパスの練習に余念がありません。体育館では、大きな声を張り上げて、自分の組の優勝を信じる応援団が練習しています。金管バンドは、習いたての楽器を手に、「校歌」の演奏を頑張っています。裏の畑では、必死に虫追いや草取りを楽しんでいる子がいます。ジャングルジムや鉄棒ではいつもいろいろな学年の子どもたちが木の実のようにぶらさがっています。スポーツ選手、リーダー、演奏家、探検隊、体操選手……。生麦小の子どもたちの輝く姿と夢の実現に向けて、いつも応援しています。

さて、そんな子どもたちの活躍を、運動会で多くの皆様に見ていただきたいところですが、社会的距離をとるために、入場制限をさせていただきます。そして、いつも温かく、熱く応援してくださっている地域の皆様方のご入場はご遠慮いただくこととなりました。とても申し訳なく、残念に思います。子どもたちのために、それぞれの場所で心の応援を送っていただけたら幸いです。どうぞご理解のほど、よろしくお願いたします。